

私は 2017 年 6 月 5 日（月）～6 月 23 日（金）の 3 週間、母校にて教育実習を行いました。実習が始まり、最初の 1 週間は主に授業見学、2 週間目以降は実際に授業をさせていただきました。授業見学については、教科に関わらず多くの先生方の授業を拝見しました。合計 25 コマほど拝見し、基本的な授業の進め方や生徒観などを確認しました。特に生徒観に関しては念入りにチェックし、2 週間目以降の実践授業の参考にしました。そのほか、授業に対する工夫や教科ごとの進め方、特徴などを学びました。実際に現場の先生方の最新の授業を見学できる機会は、実習期間中で 1 週間程度しかないと思いますので、「先生として教壇に立つ（2 週間目以降）」直前の最終確認として捉え、一つ一つの授業を大切にし、できるだけ多くの先生方の授業を見学してほしいと思います。

実践授業は合計 15 コマ（講義：9 回、実験：6 回）担当させていただきました。実践授業に対して私は、「指導教諭のような高い水準で授業を展開する」ことを心がけていました。実力的には不可能ですが、気持ちとしてこのように思うことは大切だと考えます。というのは、3 週間の教育実習生であっても生徒からすると指導教諭と同じ「先生」です。そのため水準の低い授業を展開することは生徒と実習校に失礼だと思いますし、特に生徒に関しては、実習で担当した範囲の学力に支障をきたすことも考えられます。したがって実践授業の際には、このようなことを十分に考えて良い授業を展開してほしいと思います。

良い授業の展開には授業準備が必要不可欠です。準備に関する教材研究などをしっかりと行うことは当たり前ですが、それに加えて「指導教諭の授業方針」を感じ取るという準備も大切であると思います。これは生徒観に関係することですが、生徒や学力、校風などは学校ごとに大きく違うことがあります。指導教諭はこれらのことを考慮され、生徒に最適な方法・内容で授業を展開しておられます。そのため、実習生が考える授業内容だけで展開すると、生徒はついてくることのできない(生徒にとって授業レベルが高すぎる)場合や授業が成り立たない(生徒が退屈するなど)場合があります。このことは前述した、生徒の学力に支障をきたす可能性があります。したがって、実習現場では実習生が考える授業内容と指導教諭の授業方針(実習校の状態など)を考えて、目の前の生徒にとって最適な方法・内容で授業を実践する必要があると感じます。一般に授業方法の一つとして、ICT 等を活用したアクティブラーニングがあります。私は実習中に、アクティブラーニングの実施には注意が必要で、それを取り入れた授業が必ずしも生徒の学力・能力向上には繋がらないということを指導教諭に教えていただきました。教師はまず生徒観等を確認し、それが取り入れられる環境であるかという判断の下で実施する必要があると知りました。ここで私は、この判断無しでは、せっかくのアクティブラーニングが生徒のためにならず、教師の自己満足になりかねないと感じました。したがって実習では、目の前の生徒に最適な授業展開・方法は何かを考え、オリジナリティーのある授業を心がけてほしいと思います。